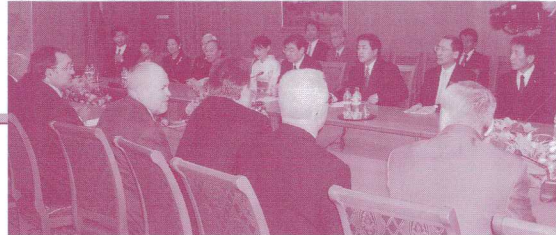


京都府レニングラード友好提携 10周年記念京都府友好訪問団

- ① 目的： 京都府とロシア連邦レニングラード州との友好提携10周年にあたり、同州との友好関係の発展と交流の推進を図る（ロシア連邦政府訪問、日ロ環境シンポジウム等）
- ② 日程： 平成16年10月12日(火)～10月18日(月)【7日間】
- ③ 訪問先： ロシア連邦 モスクワ市、レニングラード州



～ 国際交流が私に与えてくれたもの ～

世界は今、急速な社会進展に伴い経済機構の編成・環境問題・エネルギー食糧問題など国際社会の課題の中で、お互いの価値観が理解しあえる国際交流が求められています。

振り返って見ますと平成13年に、京都府連合婦人会の国際交流事業に参加し英国のピーターバラとエジンバラへ親善訪問しました。ピーターバラでは、日本文化の紹介で“お茶席・手芸・折り紙”を体験を通して友好を深め現在も環境問題等情報交換を続けています。

エジンバラは、京都府と友好提携都市で女性団体との交流を申し入れました。“社会的な女性の地位とボランティア活動について”をテーマに話し合い、その中で ●女性自身の意識を変えること ●女性が力をつけること ●社会進出について考えることがあげられました。現在市議会女性議員は全体の40%、ボランティアグループが600余りあり、活発な活動をしていると紹介されたことを思い出しています。

本年は、京都府とレニングラード州との友好提携10周年を記念し、10月12日から7日間京都府訪問団は、ロシア連邦モスクワとレニングラード州を親善訪問され私も参加しました。

モスクワでは、ロシア連邦水資源モニタリング庁を訪れ、地球温暖化防止対策や京都議定書発効への協力依頼に対し、ロシア政府は国際社会の課題としての政策と伺い期待して退庁しました。予定の行程を終え14日レニングラード州へ入りました。

サンクトラペテルブルグは、歴史文化の重みと近代文化の融合した美しい街で、州政府の手配で施設の訪問や視察、記念事業等、意義深い親善訪問となりました。

特に京都文化の紹介は山田美嘉様の茶道お点前、お運びは和服姿のロシア女性で双方の心が溶け込み真の国際交流を体得した思いでした。日ロ環境シンポジウム、日本桜の記念植樹等、両府州の信頼関係が人脈となって友好交流の促進になることを願い、また海外研修KYOのあけぼの会が国際社会の人づくりの場として、活用させていただきたいとの思いで帰国いたしました。

京都府を始め関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

栗田 澄子



「京都府男女共同参画推進条例」誕生から満1歳～あなたもチャレンジ!

「海外研修KYOのあけぼの会」をはじめ各種女性団体の熱い声援をいただいて生まれた、「京都府男女共同参画推進条例」が施行されて1年が経ちました。

堅い言葉で、ちょっと親近感が持てませんか? でも皆さん、日頃から地域、家庭、また職場と、様々な場面で条例の理念をご自分の言葉で、生かしていただいていることと思います。一人でも多くの女性が、様々な分野で個性と能力を十分に発揮できるよう、京都府においても、条例制定を機により一層「女性のチャレンジ支援」に取り組んでいます。

いつでもどこでも誰でもチャレンジ!

「海外研修KYOのあけぼの会」におかれましても、新規会員の加入を進めネットワークを広げながら、積極的に海外自主研修を企画されるなど、ステップアップを図られており、まさにチャレンジのロールモデルといえます。そして、意欲が増すにつれさらに「もっと～したい!」との思いが皆さんの中でふくらんでいませんか。

本年度、就業やキャリアアップ、起業、NPOづくり、ボランティア活動など、女性の幅広い参画や能力発揮を支援し、男女共同参画の一層の推進を図るため、一人ひとりのニーズに合ったチャレンジをサポートするため、各種施策を実施しました。

- 女性のチャレンジ相談窓口の開設 ●「キャリア支援講座」の創設
- 「女性チャレンジネットワーク会議」による連携強化
- 「チャレンジ・サイト」の開設や、「チャレンジ・ハンドブック」の刊行を通じての身近なロールモデルの提供など

※詳細については、京都府女性総合センターHP内「チャレンジ・サイト」(<http://www.kyoto-women.sc.jp/challenge>)をご覧ください。

「チャレンジ」という言葉は、その受けとめ方や取り組み方に、様々な形があることでしょう。

今後も男女共同参画の視点で、条例を抛り所としながら、地域に根ざした男女共同参画の推進に努めていきたいと考えています。

「女性副知事サミット2004しが」への参画

2004.9.4 会場：びわ湖ホール

昨年度、「KYOのあけぼのフェスティバル」で実施した女性副知事サミットが、お隣の滋賀県にバトンタッチされ、佐村副知事をはじめ全国の女性副知事5名が一堂に会しました。KYOのあけぼのフェスティバル実行委員会メンバーである「海外研修KYOのあけぼの会」の皆さんもこのサミットに参加し、「男女共同参画と次世代育成支援」のテーマのもと交わされた力強いエールの交換に新たな感銘を受けました。その一端をご紹介します。

佐村 知子 京都府副知事

制度やシステムが整備され、家庭で足りない部分は地域の子育て力を活用して相談ができたり、職場が自然と受け入れるようになれば、子どもや家庭を持つことに夢を持てるのではないかと。男女双方にバランスがとれた男女共同参画社会が大切である。

安藤 よし子 滋賀県副知事

少子化の背景にある問題とは非常に根深く、制度や行政サービスの充実を進めるとともに、根底から社会を変える、生き方を変える、意識を変えることが必要。その時にキーワードとなるのが男女共同参画。これを基本に据えながら少子化対策を。少子化こそが社会システムを変える原動力。危機をチャンスに。

内野 淳子 岡山県副知事

少子化の流れを変えるのに最も大きな障害は、働き方の問題。「職場」には男性中心の慣行、文化、風土があるのでは? この比重をずらしていく。少子化の流れに対応するためには、いろんなところで男女共同参画をしていないと対応できない。

引き続き2005年度は岡山県で開催される予定です。ご期待ください。